

平成30年度(2018年度)

管理事業名	少年自然の家事業				総合計画の体系	第4章 第1節	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり 学ぶ意欲と主体性を育てるまちづくり			
主な歳出 予算科目	一般会計	(款)	10	教育費	(項)	5	社会教育費	(目)	7	少年自然の家費
部局名	地域教育部	予算執行所属	少年自然の家							
予算大事業名 施設管理事業 施設運営事業	上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名									
<b>事業の目的と概要</b> 施設管理事業では、青少年が自然の中で自然に親しみながら、自然観察や環境学習、キャンプ等の野外活動を集団宿泊生活等を通じて安心・安全に実施展開するために必要なハード・ソフト両面整備と、施設をより有効活用するため地元関係機関との連携や情報発信を強化し、市民のみならず「もう一度行ってみたい。是非一度行ってみたい。」と思ってもらえる施設運営を行っています。 施設運営事業では、施設の立地条件や自然環境等を活用し、一般の受け入れ事業では実施や企画が困難なプログラムを、主催事業という方法で行っているもので、地元高島市との交流事業、森林体験事業、自然観察事業及び家族交流事業を実施しています。										

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	成果指標の定義
利用者人数	人	20,944	20,113	18,753	施設の延べ利用者(利用者数×利用日数)
利用率	%	79	74	72	年間開所日数に対する利用日数の割合
利用団体件数	件	355	353	303	年間の利用団体数
成果の説明	平成29年度の利用実績と比較すると、大阪北部地震や台風等の影響もあり、利用者人数で1,360人、利用率で2%、利用団体数で50団体減少しました。今後も、ホームページ等による情報発信の強化、利用者の目線に立った柔軟な施設運営を継続的に行っていきます。 なお、今後も平日の利用促進を図ることが課題であり、新たなプログラムなどの提供を図り、吹田市の小・中学校等を中心に利用して頂けるよう努めます。 施設運営事業の「少年キャンプ大会」は吹田93名、高島市49名の参加があり、2泊3日の宿泊生活や様々なプログラム体験により参加者相互の交流を深めました。「森林体験事業」は25名の参加があり、講師の話や樹木の間伐体験等により、森林保全の重要性を学びました。「自然観察会」と「自然観察指導」では、自然体験学習指導員が中心となり、四季折々の特色ある自然環境について学習する機会を提供しました。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書 (単位:千円)

勘定科目	平成28年度	平成29年度 A	平成30年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	2,599	2,579	2,491	△88
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	361	104	105	2
経常収入 小計(a)	2,960	2,682	2,596	△86
給与関係費	36,921	37,605	38,173	568
物件費	29,106	28,588	28,863	275
維持補修費	3,274	6,949	4,693	△2,256
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	974	974	950	△24
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	8,224	8,007	8,759	752
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	1,854	1,880	1,959	79
退職手当引当金繰入額	1,498	1,399	1,688	289
支払利息	-	-	-	-
その他	-	8,316	-	△8,316
経常費用 小計(b)	81,851	93,718	85,086	△8,632
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△78,891	△91,036	△82,490	8,546
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別収入 小計(d)	-	-	-	-
固定資産除売却損	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別支出 小計(e)	-	-	-	-
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	-	-	-
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△78,891	△91,036	△82,490	8,546
一般財源充当額	79,665	87,819	74,054	△13,765
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	774	△3,217	△8,435	△5,219

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
経常費用 維持補修費	平成29年度の自然災害(台風等)に伴う修繕費 1,716千円分の減
経常費用 その他	平成29年度の風呂用ろ過機の改修工事に伴う工 事請負8,316千円分の減

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表 (単位:千円)

区分	平成28年度	平成29年度 A	平成30年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	2,720	2,682	2,596	△86
行政サービス活動支出	74,069	77,990	76,651	△1,339
行政サービス活動収支差額	△71,349	△75,308	△74,054	1,253
投資活動収入	-	-	-	-
投資活動支出	8,316	12,511	-	△12,511
投資活動収支差額	△8,316	△12,511	-	12,511
財務活動収入	-	-	-	-
財務活動支出	-	-	-	-
財務活動収支差額	-	-	-	-
収支差額 合計	△79,665	△87,819	△74,054	13,765
一般財源充当額	79,665	87,819	74,054	△13,765
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の 主な内容	大阪北部地震の発生により、宿泊室間仕切り工事 (4,023千円)が中止になった。
--------------	---

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
開所日1日あたりの コスト	平成28年度	302日	271,030円	開所日1日あたりのコストは前年度より20,449円減少しました。 主な要因として、平成29年度 風呂用ろ過機の改修工事の完了及び台風被害による維持補 修費の減少等により経常費用が減少したためです。
	平成29年度	313日	299,419円	
	平成30年度	305日	278,970円	
利用者1人あたりの コスト	平成28年度	20,944人	3,908円	自然災害等により利用者数が減少したものの、当該減少率以上に経常経費が減少したこと により、利用者1人あたりのコストは前年度より123円減少しました。
	平成29年度	20,113人	4,660円	
	平成30年度	18,753人	4,537円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	平成29年度末 A	平成30年度末 B	差額 B-A	勘定科目	平成29年度末 A	平成30年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	1,880	1,959	79
未収金	-	-	-	地方債	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	短期借入金	-	-	-
短期貸付金	-	-	-	賞与引当金	1,880	1,959	79
徴収不能引当金	-	-	-	未払金	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	リース債務	-	-	-
有形固定資産	1,073,622	1,064,863	△8,759	その他流動負債	-	-	-
土地	964,984	964,984	-	固定負債	20,345	19,942	△404
建物・工作物	108,638	99,878	△8,759	地方債	-	-	-
リース資産	-	-	-	長期借入金	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	退職手当引当金	20,345	19,942	△404
無形固定資産	240	240	-	リース債務	-	-	-
インフラ資産	-	-	-	その他固定負債	-	-	-
土地	-	-	-	負債の部合計	22,225	21,901	△324
建物・工作物	-	-	-	純資産	1,051,637	1,043,202	△8,435
建設仮勘定	-	-	-	重要物品	0	0	-
重要物品	0	0	-	図書館資料	-	-	-
図書館資料	-	-	-	投資その他の資産	-	-	-
投資その他の資産	-	-	-	出資金	-	-	-
出資金	-	-	-	長期貸付金	-	-	-
長期貸付金	-	-	-	基金	-	-	-
基金	-	-	-	徴収不能引当金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	その他債権	-	-	-
その他債権	-	-	-	資産の部合計	1,073,862	1,065,103	△8,759
資産の部合計	1,073,862	1,065,103	△8,759	負債及び純資産の部合計	1,073,862	1,065,103	△8,759

III 財務構造分析

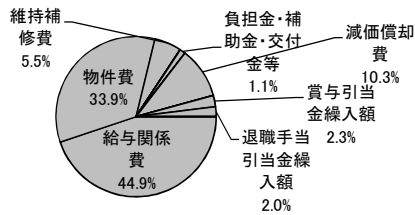
▽人にかかるコストの内訳

	常勤・再任用 月平均	非常勤 月平均	臨時雇用員 年間従事日数	審議会委員等 実人数	合計(千円)
事業従事人数	3人	5人	232日	15人	41,821
給与関係費等	25,740千円	13,576千円	2,193千円	312千円	
内、時間外勤務手当	505千円				

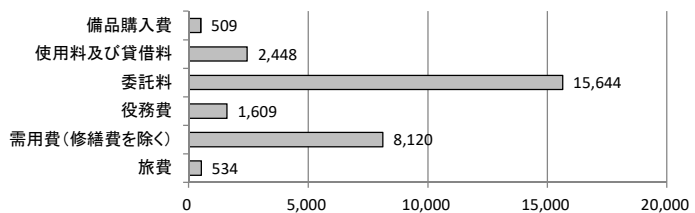
貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由
建物・工作物	少年自然の家建物の減価償却による減
合計	

▽経常費用の構成割合



物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	吹田市立少年自然の家
取得年月日	昭和55年(1980年)5月5日
建物・工作物の取得価額	415,341千円
建物・工作物の減価償却累計額	315,463千円
利用料金収入	2,491千円

▽分析指標

分析指標	年度			差 B-A
	平成28年度	平成29年度 A	平成30年度 B	
施設維持補修費比率	0.8	1.7	1.1	△ 0.6
施設老朽化比率	74.1	73.8	76.0	2.2
受益者負担比率	3.2	2.8	2.9	0.1
徴収不能引当率	-	-	-	-
一般財源充当比率	96.7	97.0	96.6	△ 0.4
経常費用対公共資産比率	20.3	22.6	20.5	△ 2.1

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は56.2%】

IV 総括

▽分析結果の説明

経常経費の主なものは、給与関係が38,173千円(44.9%)、物件費28,863千円(33.9%)、減価償却費8,759千円(10.3%)、維持補修費4,693千円(5.5%)となっております。物件費の主な内訳は5,715千円が警備業務委託料、3,175千円が清掃業務委託料、6,528千円が需用費(光熱水費、燃料費)です。維持補修費の主な内訳は2,160千円が浴室及び脱衣室の混合栓の取り換え工事費、988千円が体育室照明器具取り換え工事費です。  
老朽化比率は、76.0%で前年度と比較しますと2.2%老朽化が進行しました。  
主な経常収入は、少年自然の家使用料(宿泊使用料及びシーツ使用料他)が2,491千円であり、地震や台風等による利用のキャンセルにより、前年度と比較して88千円減少しました。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

昭和55年(1980年)のオープン以来約40年が経過し、この間実施計画に基づき本館の耐震改修やトイレの簡易水洗化工事及び野外食堂の整備を行い、平成30年度(2018年度)は、浴室混合栓、体育室照明機器(LED)、食堂等の冷暖房設備の改修及び公衆無線LAN(Wi-Fi)環境の整備等、利用者の安全・安心と多様化するニーズに対応した施設改修を行いました。  
利用実績では、地震や台風等による利用のキャンセルにより過去2年と比較して利用者数が減少しましたが、申し込み件数に大きな差は無く、利用要件の緩和、臨時開所日の周知、ホームページ等による情報発信が効果を表しつつあるものと考えられます。  
また、施設の効果的かつ効率的な管理運営と魅力ある事業展開を目的に、令和2年4月から指定管理者制度の導入に向け、設置目的や使用者の範囲の見直しなど条例の改正手続きを行いました。